

2020年（令和二年）

7月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

6/18～6/24のNYMEX・WTI先物市場は、38.01～40.46ドルの範囲で推移した。

6月25日は、新型コロナ感染第二波の懸念から売られる場面もあったものの、前日の大幅統落の反動、米国株式市場の回復に助けられ、反発した。8月限終値は前日比0.71ドル高の38.72ドル。

週末26日は、カリフォルニア州・フロリダ州・テキサス州・アリゾナ州等で新型コロナ感染患者が再び増加、経済再開の停止の動きも出ていることから、反落した。ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は188基と前週比1基減、15週連続の減少（495基減）で、2009年6月以来の低水準となった。8月限終値は前日比0.23ドル安の38.49ドル。

週明け29日は、ユーロ圏景況感指数や中国の5月製造業利益が6か月ぶりに増加するなど、欧州・中国の経済指標の改善を背景に大幅に反発した。8月限終値は前週末比1.21ドル高の39.70ドル。

30日は、米国の新型コロナ感染の再拡大への懸念から、反落した。また、1月から内戦のためほぼ停止していたリビアからの原油出荷が再開するとの報道が供給過剰感を増幅した。8月限終値は前日比0.43ドル安の39.27ドル。

7月1日は、コロナ感染第二波への警戒感、IMFの2020年の世界経済成長率の▲4.9%への下方修正、米国エネルギー情報局（EIA）発表の米国原油在庫が予想外に減少し、需給改善への期待感から反発した。また、米国の製造業関係の経済指標もこれを後押しした。8月限の終値は前日比0.55ドル高の39.82ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月

渡し）は6月18日～24日の間39.90～42.90ドルの範囲で推移した。6月25日40.30ドル、26日41.70ドル、29日40.50ドル、30日41.90ドル、6月1日41.30ドルと推移した。

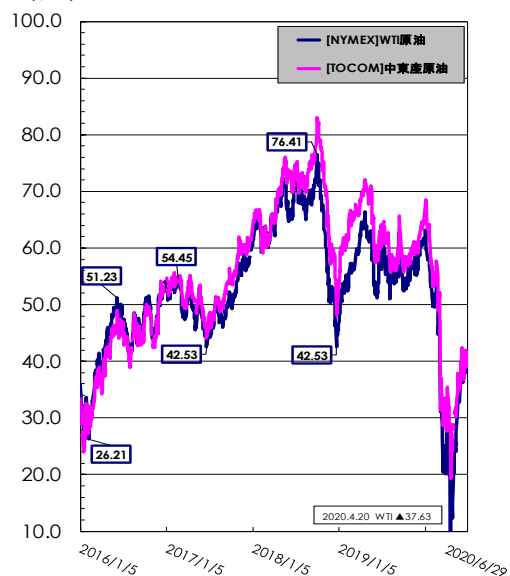
為替は6月18日～24日の間106.52～106.96円の範囲で推移した。6月25日107.06円、26日107.12円、29日107.24円、30日107.74円、1日108.12円で推移した。

財務省が6月26日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、15,891円/klで、前旬比217円高、ドル建て23.49ドルで前旬比0.20ドル高、為替レートは1ドル/107.59円。また、6月17日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、5月の原油輸入平均CIF価格は、16,844円/klで、前旬比12,067円安、ドル建て25.01ドルで前旬比17.32ドル安。為替レートは1ドル/107.07円。

そのような中で、6月29日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油は2円の値上がり（18㍲ベース）だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油は7週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。この週（6月第5週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の値上げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/21 ~ 6/27	2,472 ▲57	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	63.1 ▲1.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/27	13,779 ▼173	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	6/29	39.10 ▼2.23	▼25.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/29	39.70 ▼0.76	▼19.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	23.49 ▲0.20	▼49.59
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	15,891 ▲217	▼34,248
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.59 ▼0.60	▲1.48
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/29	108.24 ▼0.47	▲1.01

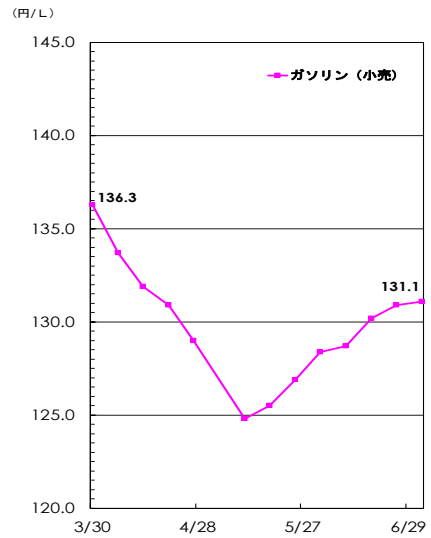
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/21 ~ 6/27	832 ▲ 74	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	826 ▲ 114	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -18	▼ -
	在庫	6/27	1,685 ▲ 6	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/23 ~ 6/29	39.0 ▲ 1.4	▼ -19.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/23 ~ 6/29	38.9 ▼ -0.1	▼ -17.0
	(TOCOM/中部)	6/29	38.5 ▼ -1.2	▼ -20.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/29	131.1 ▲ 0.2	▼ -14.5

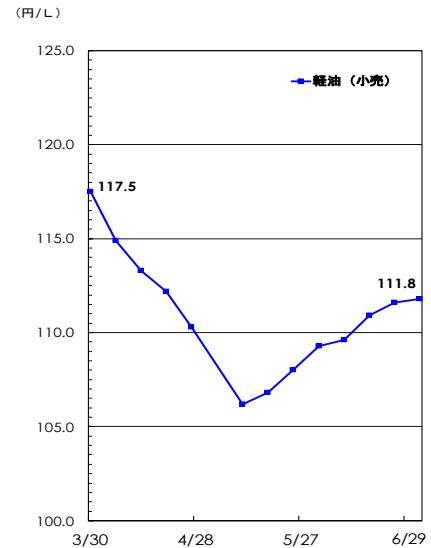
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

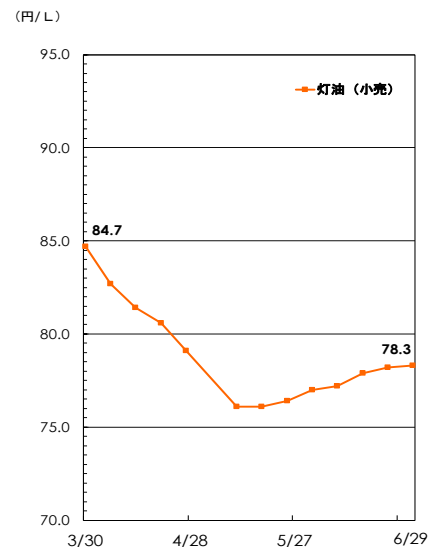
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/21 ~ 6/27	642 ▼ -1	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	606 ▲ 123	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -36	▼ -
	在庫	6/27	1,472 ▲ 36	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/23 ~ 6/29	40.9 ▲ 0.7	▼ -20.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/23 ~ 6/29	45.5 ▲ 0.1	▼ -16.4
	(TOCOM/中部)	6/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/29	111.8 ▲ 0.2	▼ -14.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/21 ~ 6/27	163 ▲ 21	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	121 ▲ 63	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -
	在庫	6/27	1,797 ▲ 43	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/23 ~ 6/29	39.5 ▲ 0.4	▼ -21.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/23 ~ 6/29	40.0 ▲ 2.6	▼ -17.7
	(TOCOM/中部)	6/29	39.3 ▲ 0.8	▼ -20.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/29	78.3 ▲ 0.1	▼ -12.9



■ 関連情報

1 海外/原油

7月1日のNYMEX市場WTI先物原油は、新型コロナ感染の第二波の拡大が懸念される中、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、前週末の原油在庫が前週末比720万バレル減少と、市場予想(70万バレル増)に反し取り崩しとなり、需給改善への期待感が高まったこと、米国の製造業の経済指標が堅調だったことから、反発した。8月限の終値は前日比0.55ドル高の39.82ドル、9月の終値は同0.58ドル高の39.92ドル。

EIAによると、6月29日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.50セント値上がりの1ガロン2.174ドル(62.1円/ℓ)、

ディーゼルは同0.05セント値下がりの2.430ドル(69.4円/ℓ)となった。ガソリンは9週連続の値上がり、ディーゼルは4連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年6月21日～6月27日に休止したトッパー能力は82.9万バレル/日で、前週に対して4.8万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は247.2万klと、前週に比べ5.7万kl増加。前年に対しては84.4万klの減少。トッパー稼働率は63.1%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては21.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/9.8%増、ジェット/28.4%増、灯油/14.7%増、軽油/0.1%減、A重油/19.9%減、C重油/42.7%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は0.0万kl(前週比3.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は82.6万kl(対前週16.1%増)と2週振りで増加となり、45週連続で100万klを下回った。ジェット5.4万kl(対前週6.1%減)、灯油12.1万kl(対前週107.0%増)、軽油60.6万kl(対前週25.4%増)、A重油14.5万kl(対前週6.8%減)、C重油12.4万

kl(対前週39.0%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (6/21 ~ 6/27)	前週 (6/14 ~ 6/20)	前週比
ガソリン	826	712	▲ 114 (16%)
ジェット燃料	54	57	▼ -3 (-5%)
灯油	121	58	▲ 63 (109%)
軽油	606	483	▲ 123 (25%)
A重油	145	155	▼ -10 (-6%)
C重油	124	90	▲ 34 (38%)
合 計	1,876	1,555	▲ 321 (21%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月27日時点の在庫は、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは168.5万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては20.5万kl多い。

灯油は179.7万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては30.2万kl多い。

軽油は147.2万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては16.3万kl多い。

A重油は77.1万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては9.4万kl多い。

C重油は183.3万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては11.5万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (6/27)	前週 (6/20)	前週比
ガソリン	1,685	1,679	▲ 6 (0%)
ジェット燃料	662	640	▲ 22 (3%)
灯油	1,797	1,754	▲ 43 (2%)
軽油	1,472	1,436	▲ 36 (3%)
A重油	771	777	▼ -6 (-1%)
C重油	1,833	1,874	▼ -41 (-2%)
合 計	8,220	8,160	▲ 60 (0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月23日～29日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替は横ばい、原油コストは値上がりしたものと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月23日～29日の製品スポット市況は、6月16日～22日平均と比べ、ガソリン先物を除く、全油種・全取引で、値上がりした。

直近(6/23～6/29)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。直近(6/23～6/29)において、ガソリンは91～93円台で値上がり、灯油は38～40円台で値上がり、軽油は40～41円台で値上がりの方向で推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、同期間、前週比で、ガソリンは1.8円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間に、ガソリンは93～95円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油は37～38円台でわずかに値上がり、軽油は43円台で値下がり、で推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンが0.1円の値下がり、灯油は2.6円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、同期間に、ガソリンは91～93円台で出入り激しく値下がり、灯油40円台で横ばいで、軽油46～44円台出入り激しく値下がり、で推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (6/23～6/29)	前週 (6/16～6/22)	前週比
	レギュラー	39.0	37.6	▲ 1.4
	灯油	39.5	39.1	▲ 0.4
	軽油	40.9	40.2	▲ 0.7

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値) [平均]	今週 (6/23～6/29)	前週 (6/16～6/22)	前週比
	レギュラー	38.9	39.0	▼ -0.1
	灯油	40.0	37.4	▲ 2.6
	軽油	45.5	45.4	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/23～6/29実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.4	▼ -0.1	▲ 0.7	
灯油	▲ 0.4	▲ 2.6	▲ 1.5	
軽油	▲ 0.7	▲ 0.1	▲ 0.4	
A重油	▲ 0.8			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の131.19円、軽油も同0.2円高の111.8円、灯油は18ℓベースで同2円高の1,410円(1ℓベースでは同0.1円高の78.3円)。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油は7週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは27府県、横ばいは4県、値下がり16都道府県となった。全国最安値は徳島県の120.1円(同0.3円安)、その次に安いのが岡山県の124.6円(同0.3円安)、最高値は長崎県の141.9円(同1.4円高)。最も値上がりしたのは、同2.6円高の滋賀県(133.1

円)、横ばいは福井県・宮崎県・島根県・新潟県の4県、最も値下がりしたのは、同1.8円安の山口県(130.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社1.0円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。次回調査時(7月6日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (6/29)	前週 (6/22)	前週比	直近高値	
	レギュラー	131.1	130.9	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	78.3	78.2	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	111.8	111.6	▲ 0.2	08/8/4	167.4

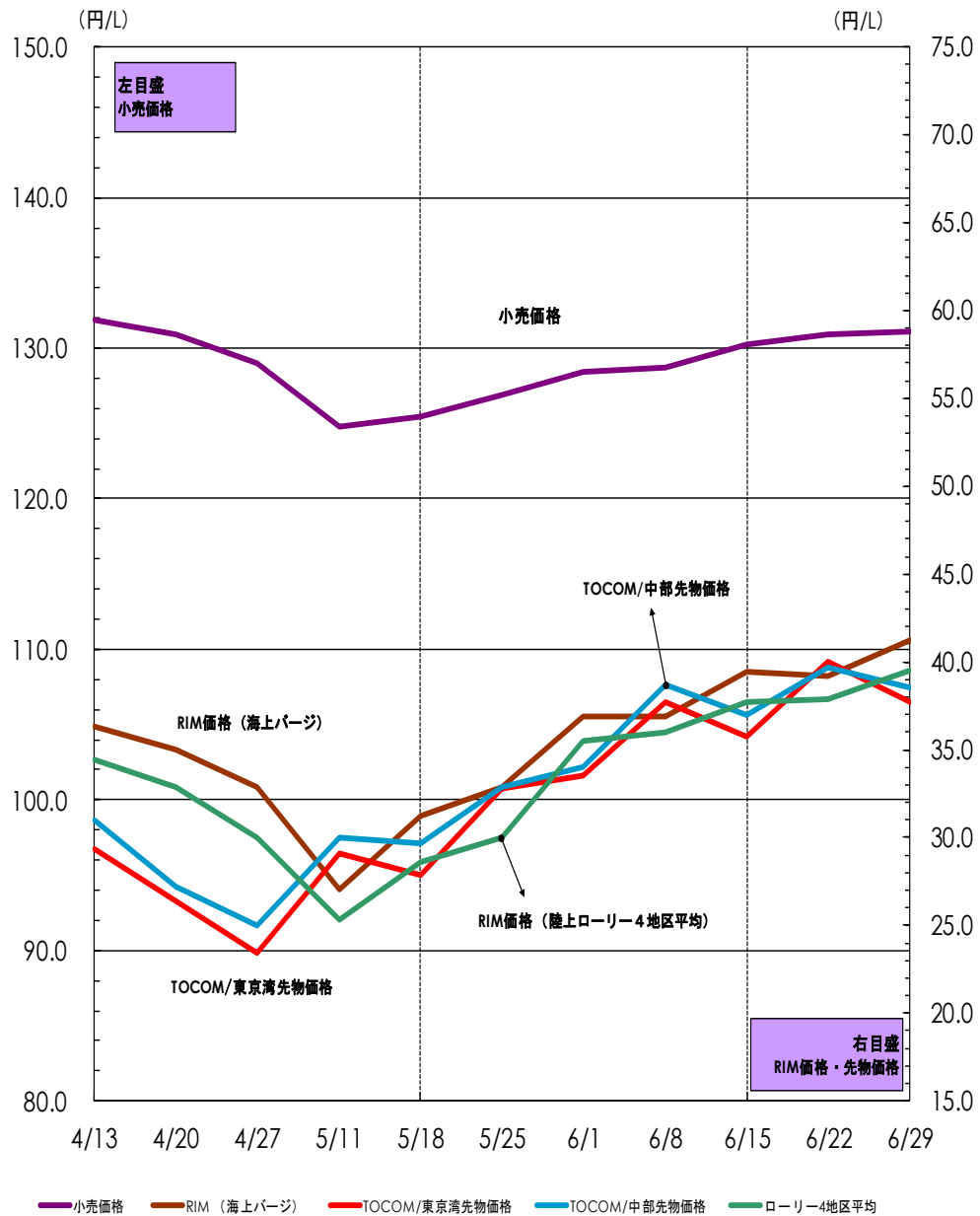
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/4/13 ~ 2020/6/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第3号)の公表は、7/10(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連通報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。